

編集後記

「先が見えない」とはまさに今の状況を言うのだろう。新型コロナウイルス感染症が世界中に広まり、いまだ収束の気配は見えない。私を含めて多くの人は、インフルエンザのように暖かい季節になると減っていくと期待しているものの、これも希望的観測でしかないとの意見もあり、まったく先が見通せない状況である。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴って、日常のありとあらゆる物事に制限が加わっている。身近なところではマスクやトイレットペーパーが品薄であり、中には転売する輩もいるとか。家人はけなげにもガーゼと紐を購入し、手作りのマスクを作成していた。

学会関係では3~4月にかけての学術集会は軒並み、中止や延期に追い込まれている。5月以降も楽観はできない。ホテルや観光関連は一層深刻で、このままでは深刻な経済的打撃になるであろう。準備が進む東京オリンピック・パラリンピックだけはなんとか開催されてほしい。春が来れば収束してくれることを心から祈念する。

さて、今月の特集テーマは国立スポーツ科学センターの奥脇 透先生にご企画いただいた「肉ばなれの病態と治療」である。来たるスポーツの祭典を前にした時宜を得た特集である。奥脇氏には総論として、疫学や診断について触れていただいた。肉ばなれの40%

がハムストリングに発生すること、スポーツ復帰時期にはMRIによる確実な評価を要することを述べていただいた。鳥居氏には画像を用いた評価による保存療法の具体的な方法について触れていただいた。実地医家には大いに参考になる。服部氏には新規治療であるPRP(多血小板血漿)療法の可能性を紹介いただいた。その効果実証には今後の追試を要するものの、競技復帰期間が短縮された例が述べられており、新たな治療として期待される。また、武田氏には高気圧酸素による治癒促進の可能性について紹介いただいている。吉村氏には最も多いハムストリングの肉ばなれに対する手術療法、特にハイレベルアスリートに対する手技と効果について述べていただいた。鎌田氏、御園生氏、水谷氏、中嶋氏にはそれぞれ陸上競技、サッカー、フェンシング、レスリングにおける肉ばなれの頻度、特徴そして治療について具体的に紹介いただいている。

肉ばなれは身近なスポーツ外傷であり、整形外科医であれば必ず遭遇する疾患である。しかしながら、その病態を詳しく語れるかと言うとなかなか難しいのが実情ではないだろうか。本特集では疫学から具体的な治療法まで幅広く記載いただいた。肉ばなれの最新知見に触れていただき、読者と患者さんの福音につながっていくことを期待する。

(中島康晴)

「整形・災害外科」第63巻 第4号 (4月号) 2020年4月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 2,500 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) [年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。